

鹿路山笠置寺は木津川の河上、笠置の山上にあり。「麓に民家多し、川を隔て両村あり、南笠置北笠置といふ」

夫 木 五月雨は水上にまさるいづみ川かさぎの山も雲かくれつ、 俊 成

当山を笠置と号る事は、往昔天武天皇此山に遊獵し給ふ時、乗じ給ひし駿馬巖に膝を屈して動ず。天皇危急にして三宝を礼し、安泰を得さしめ給はゞ、此山に仏閣を造営すべしと祈誓し給ふ。既に感応ありて乗馬速に進む、故に其証として着脚の藺笠をこゝに遺し、還幸し給ふ。遂に仏閣を建立ありて笠置寺と号し給ひぬ。「麓より坂路八町あり、宗旨は真言にして新義なり」

本堂には弥勒仏を本尊とす。「自然石に刻む」護摩堂「これを正月堂と号す。いにしへは春三箇月の間天下安全の修法ありて、二月堂三月堂にあり。当山回祿の後は南都東大寺に於て二月三月の修法あるなり」弥勒石「天武帝此山をひらき給ひし時、天人天降りて弥勒の像を刻む。高さ六間横四間ばかり、回祿の時石面焦て佛像明に見えず」

薬師石「高サ十間余横五間ばかりあり」文殊石「高サ五間余横四間ばかり」

虚空蔵石「高サ八間ばかり石面に仏像鮮なり」千手窟「良辨僧都こゝに籠り行法し給ふ所なり。笠置窟といふ」胎内潜「奥の深さ廿間ばかり、身を縮てくゞるなり」

楠 書判石「楠正成石面に書判を居おきしなり」護摩壇跡「良辨此所において祈祷ありしなり」貝吹岩「護摩修法の時

貝の音せしとなり」榎本神「当山の鎮守なり」

鐘樓〔解脱上人冥土より閻浮檀金を取り帰り、これを交て鑄立しかねなり。銘に曰、笠置山般若台建久七年丙辰八月十
五日大和南無阿弥陀仏〕般若台〔鐘樓の西にあり、解脱上人と春日明神と対面の所なり〕解脱上人塔〔八町ばかり東に
あり、溪を隔て向ふの山なり〕

千手瀧、石正童子瀧、金剛童子瀧〔此山のひがしにあり、溪川のながれなり〕

後醍醐帝の皇居は、当山の巔にして、本丸二の丸の跡は、薬師石弥勒石の上の平地なり。楠正成もこゝに来つて始て御
味方をいたし、陶山小見山が夜討せし所は、此山の背にして北の方にあたれり。数百丈の巖石そびえて鳥も翔がたく、
古松枝を垂れ、蒼苔露なめらかなり。麓には泉川を帯て白浪巖を砕く勢ありて、水流の委曲驚蛇に似たり、山州第一の
勝地にして、千巖秀を競ひ万壑流を争うたる山水の美といひつべし。

栗栖天神宮〔笠置山の麓人家の西にあり。祭る所は天満天神なり。是笠置寺の守護神とす、此所の氏神にして、祭は九
月二日なり〕飛鳥路〔笠置の北十余町にあり。陶山小見山此山より夜討せしとぞ、今に至りて笠置の里と睦じからず〕
有市〔飛鳥路の北なり、三太夫が淵は泉川の岸にあり〕

大河原〔有市の西なり、此所山城大和伊賀等の国境なり〕